

草の根交流海外派遣について

昨年、協会設立10周年を記念して、草の根の国際交流を推進し地域の国際化につなぐため、友好提携先である韓国務安郡と今後交流が見込まれる米国グアム準州に市民交流団(務安郡21名、グアム20名)を派遣しました。

この草の根交流海外派遣事業は、大きな反響をいただき、「次の交流につなげていってほしい」との市民の声が事務局に多く寄せられました。それに応え、さらに市民主導を徹底させ、本年度、新たに、「補助金制度」を立ち上げたところです。協会は、この「補助金」を自由度の高いものにして、「市民が主役」となる国際交流の実現をめざして活用していく考えであります。

A group of approximately 20 children and several adults are posed for a group photo. The children are sitting on the ground in the foreground, while the adults are standing behind them. They are all dressed in casual clothing, including various colors of t-shirts and shorts. The background shows a shop with shelves filled with goods and a ladder leaning against the wall.

この事業は、昨年に引き続き、北名古屋市に寄せられた篤志家からの寄付金等をもとに、アイデア出しから、計画づくり、実施まで、参加する皆さんには、自立し、責任を持って取り組んでいます。本年度は、5つの市



人々が軍事政権に苦しんでいた40年間、スー・チーさんは祖国を離れ、英國で研究生活を続けていました。40歳過ぎ、母国の民主化運動に急にのめり込んだのは、イギリスからの独立運動に立ち上がり、独立直前に暗殺された「建国の父」、アウン・サン将軍の影響が大きかったと思います。彼女が生まれたのは1945年6月、3人兄妹の末娘でした。

2年後の7月19日、新政権発足の会議中、乱入した5人組に、アウン・サンら閥僚予定者全てが銃殺されました。独立後、実権をにぎったのは、ネーウィン将軍で、母親が国会議員に当選していきます。初の総選挙で母親が国会議員となり、その後、インド大使となり、

のマイケルさんと結婚 1985年の夏、京都大学の東南アジア研究センターに客員研究員に招かれ、ビルマ独立運動の研究に9ヶ月間打ちこみます。

1988年4月、母親が脳梗塞で倒れ 看病のため帰国します。43歳でした。そのころ、世界で民主化運動が胎動、翌年の1989年にベルリンの壁が崩壊、中国で天安門事件が起きました。数年前から、民主化を求める運動が、ビルマにも波及し、スー・チーさんが回国した時は、軍事政権に抵抗する学生たちが連日射殺されるなど、最悪な情勢でした。

1988年8月8日の午前8時に、ラングーンの港湾労働者が一斉に職場放棄、それに学生がついてゼネストを挙行した際、軍の弾

権は、スー・チーさんを1989年7月、自宅軟禁にします。2年後、スー・チーさんはノーベル平和賞の受賞が発表されました。

軍事政権は、政権が代わっても、軍が主導権を握れるよう、憲法の改正に動きます。(議会の上下両院の25%の議席は軍人が占め、国防、内務、国境の3大臣は軍トップの国軍司令官が指名)。この結果、国軍の同意がなければ憲法改正も不可能という枠組みを作つて、スー・チーさんの自宅軟禁を最終的に解きました。

2015年11月、スー・チーさんたちの国民党民主同盟(NLD)が総選挙で圧勝し、形式的には軍事政権の時代は終わります。ただ外籍の配偶者や子どもがいると大統領になれない憲法上の制約があり、大統領に

KIIA 北名古屋市国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
Kitanagoya City International Association (KIIA)
〒481-8531 北名古屋市役所（西庁舎4階）
TEL 0568-29-1111(内線)2400

vol.32
2018. 11.

民グループの草の根交流に補助することに決定しました。グループの皆さんには、海外での交流先とのきっかけ作り、連絡調整、交流プログラム作りなどすべて手作りでの草の根の国際交流にチャレンジしております。

その成果は、2月9日(土)に開催を予定しております「第7回アジア太平洋フェスティバル(主催協会)」で、市民報告会として交流体験を発表していただきます。

このような「市民が主役」となる草の根の国際交流の積み重ねが、市民のあいだに国際感覚が醸成され、異文化の理解を深め、北名古屋の

平成30年度 草の根交流海外派遣グループ一覧表

グループ名	代表者	派遣国等	期間
フィリピンを知る会	美越宣男	フィリピン	未定
グアムリビチーム	米田環	グアム	11/25~11/27
ヨジャフェ	伊藤慶子	韓国	11/2~11/5
北名古屋市ハングル同好会	水田育男	韓国	10/14~10/17
スラムの幼稚園を守る会	梅澤ルミ子	タイ	7/12~7/15

草の根の国際
交流をけん引
するエンジン
づくりへとつな
がっていくもの
と確信してお
ります

出口見えぬ ロヒンギヤ問題

ノーベル平和賞を受賞したミャンマー民主化運動の問われるスー・チー国家顧問

庄で3000人が死亡したと言われています。「建国の父」の娘、アウン・サン・スー、チーの帰国を知った学生、労働者代表たちが「反政府運動のリーダー」と何度も懇願。彼女も、「祖国の再建に身を捧げようと決心します。

就任できませんでした。そこで新しい「国家顧問」のポストを作り、就任しますが、思わぬ問題、ロビンギャガが、迫害が表面化します。

ミヤンマーは、人口530万人で、6割のビルマ族以外に7つの部族と各地に135の少数民族が居住している複雑な多民族国家。88%が仏教徒。4.4%を占めるロヒンギヤ族はイスラム教徒で、バングラデシュ東部から、英國の植民地時代以降、ビルマのラカイン州に移住しますが、仌教徒のミヤンマー国民からは「不法に住み着いた異教徒」と敵視されています。

サンスー・チーさんが国家顧問に就任すると、国内の少数民族や、国籍をなくしたロヒンギャ族の人たちも、きっと自分たちを守ってくれるのでと期待を高めます。チー・チーさんもラカイン州の問題解決へ特別委員会を設置しました。

ところが、9月の国連総会での就任演説では、ロヒンギャへの市民権付与には踏み込まなかつたことが、一気に不満を高めていきました。10月8日夜から9日にかけ、一部のロヒンギャを名乗る武装集団がラカイン州北部マウンドーの警察施設を襲撃、警官9人が死

2017年8月25日、ラカイン州の約30カ所の治安施設が武装集団に襲撃されました。軍は、地元の過激組織アラカンロヒンギャ救世軍の犯行と、一晩で400人を殺害、家屋に火をつけ、ロヒンギャ族を追い出しました。人々は素足で逃げ、ベンガル湾から小舟に乗つてバングラデシュ側に脱出。悲惨な光景が世界に報道され、大きな衝撃を与えました。

国家顧問にもかかわらず、軍を追求する発言に躊躇み込みます、同じノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんや、グテレス国連事

報告書を発表、国際刑事裁判所に付託するよう、安保理に勧告しました。

スー・チー国家顧問は、「難民帰還に反発している一部の仏教徒に、平和に暮らすことが必要だと理解してもらう」としつつも、「ロヒンギヤ族の共存を強制することはできない」と話します。長く続いてきた軍政の枠組みを、国家のトップとなつても、簡単に壊せない限界を感じさせます。だがミャンマーの最高権力者としての大きな責任があり、どう解決に向け動いていくか、見守っていく必要があります。

 ワールド料理講習会

国際交流をツールとした北名古屋地域ブランド商品の開発と普及のための料理講習会。「北名古屋特産!いちじく酵母」を世界の料理に活用していく取り組みです。講師は、韓国ウエスティンホテルで腕を磨いた料理の達人が指導します。



 第7回アジア太平洋フェスティバル

アジア太平洋諸国との交流の場として、市民手づくりにより開催します。
「アジア太平洋を観て、知り、食す」をテーマに、
インドにスポットを当てた国際交流イベントです。

日 時 平成31年2月9日(土)10時から15時30分
場 所 北名古屋市文化労働会館
プログラム シタール・タブラ演奏、インド舞踊力タックダンスなど。このフェスティバルは「市民参加」と「オープンな運営」を基本に進めています。協会ボランティアによる運営企画会議がアイデア出しから企画運営まで市民が主役となって進めます。

各種 **申し込み** **お問い合わせ** 等は下記までお願いします。

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15番地 北名古屋市役所西庁舎4階

北名古屋市国際交流協会

TEL 0568(22)1111 内線 2400 FAX 0568(25)1800
Eメール info@kitanagoya-kiia.jp ホームページ <http://www.kitanagoya-kiia.jp>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kitanagoyakiia>

Digitized by srujanika@gmail.com

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (319) 356-4000 or email at mhwang@uiowa.edu.

Digitized by srujanika@gmail.com



務総長から激しい非難を浴びます。そんな苦難を目指して、11月ローマ法王を越して、スー・チーさんを表敬、宗教と民族間の融和を訴えました。

私は今年7月、小学2年生の息子と北名古屋市で講演会をした井手初穂氏と一緒にコクへ向かいました。バンコクと言つてもスラム街のあるクロントイというところです。きっかけとなつたのは、国際交流協会主催の『井手初穂氏講演会』でした。その講演は大都市の中にあるスラム街の幼稚園のお話とインドで差別にあつている女性たちのお話でした。経済が発展する一方、正当な賃金が支払われずに働いている方がいること、経済発展がもたらす格差や貧困問題があることについて強く興味を持ち、井手さんのお手伝いをさせていただくことになりました。さらに、実際に自分の目でみて確かめ感じたいという思いから、井手さんと共に家族の協力を得てスラム街へ行くことを決意しました。

交流のはじまりは、なにから？

酉之保在住 梅澤 ルミ子

とができました。観察に行つたスラムの幼稚園では水道も止まつており、決して衛生的ではありません。い場所でしたが、園児たちを見守る先生や、園児のほかにも学校が終わりフットボールの練習に来る子供たちもいて、皆とても楽しそうにしていました。さらには、言葉も通じない初対面の息子に対し「一緒にフットボールの練習しよう」と手を引き仲間に入れてくれました。子供たちにとってどこに住んでいるか、どんな言葉を話しているかどんな生活をしているかは二の次で自分で『話したい!』『楽しい!』という気持ちになる交流がとても大切などと気付かされました。

この交流の主たる目的は『実状を知ることと私たちに何ができるのか』でした。しかし、ゆっくりした時間の流れの中で文化環境の垣根を越え、大人も子供も優しい心を感じることができたことが、思いの大きな収穫になつたのではないかと感じた国際交流となりました。